

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	脳疾患発症機序解明のためのヒトの死後脳サンプルを用いたマルチオミックス解析
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	新潟大学脳研究所にて保管している剖検例の凍結脳を対象とします。研究対象は、剖検時にご遺族より、剖検脳の保存及び病態解明目的で研究に使用すること、および遺伝子解析について文書で承諾をいただいた患者さんです。 神経変性疾患または精神疾患に罹患していた患者さん、および、中枢神経系に病理学的に異常を認められなかった患者さんを対象とします。
③概要	神経変性疾患や精神疾患のほとんどにおいては、その発症のメカニズムは解明されておらず、有効な予防法や治療薬は確立されていません。これらの疾患の発症のメカニズムを解明するためには、ヒトの剖検脳を用いたマルチオミックス解析の有効性が期待されています。本研究では、新潟大学脳研究所で保管されている剖検由来の凍結脳から抽出した DNA および RNA を用いてマルチオミックス解析を実施し、疾患例の脳特異的なオミックスデータの特徴や、病態に関連する遺伝子を探索し、発症のメカニズムの解明を目指します。
④申請番号	C2024-0054
⑤研究の目的・意義	パーキンソン病等の神経変性疾患によって傷害される部位と保存される部位、それぞれにおける遺伝子発現をコントロールデータと比較します。さらに各種オミックス解析によって得られたデータを合わせて解析することにより、疾患関連遺伝子を効率的に突き止めるだけでなく、より適切な解析パイプラインの構築も目的とします。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2026 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	新潟大学脳研究所で収集したサンプルで、ロングリード遺伝子発現解析、DNA メチル化解析、シングルセル解析を中心としたマルチオミックスデータを取得し、個人ゲノム解析用の大型計算機システムに配置します。これらのデータを解析することにより、ヒトの脳におけるオミックスデータの特徴を明らかにすると共に、神経変性疾患などに関わる遺伝要因を突きとめます。
⑧利用または提供する情報の項目	・新潟大学脳研究所で収集した検体（脳組織）100-200mg ・個人が特定できない臨床情報（基本情報（年齢・性別）、臨床・病理診断名、病理所見、死後時間などの脳サンプルに関する情報を含みます）。
⑨利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等で利用します。 【本学研究責任者】 新潟大学脳研究所病理学分野 教授 柿田明美

	【代表機関】 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 研究責任者： 臨床研究センター・ゲノム医科学プロジェクト 上級研究員 嶋多美穂子 【分担機関】 新潟大学脳研究所 教授 柿田明美、他田真理 公益財団法人 東京都医学総合研究所 副参事研究員 宮川卓、 プロジェクトリーダー 本多真
④試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 脳研究所病理学分野 教授 柿田明美 国立国際医療研究センター 臨床研究センター 嶋多美穂子
④お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学 脳研究所病理学分野 氏名：柿田 明美 Tel：025-227-0633 E-mail：kakita@bri.niigata-u.ac.jp